

万年筆の旅



吉村昭
記念文学館
準備室ニュース

vo.1

平成25年3月29日発行
登録番号(24)0047号
編集・発行/
荒川区教育委員会
問合せ/
荒川区教育委員会事務局
社会教育課文学館調査担当
〒116-8501
東京都荒川区荒川112-2-3
TEL.03-3802-4976

題字/津村節子氏
切絵/山崎達郎氏



©新潮社

作家・吉村昭氏

昭和2年(1927)、東京府北豊島郡日暮里町大字谷中本(現荒川区東日暮里六丁目)に生まれた吉村昭氏は、純文学のみならず、戦史や歴史など、記録性の高い作品を数多く発表し続け、文学界に多大な功績を残された作家です。

また、自伝的連作小説集「炎のなかの休暇」や「東京の下町」など

数多くのエッセイからは、氏の生涯に渡る故郷への思いが伝わってきます。

平成4年(1992)、荒川区は、吉村氏に区民栄誉賞を贈るとともに、日暮里図書館内に吉村昭コーナーを設置しました。

文学館の設置

平成18年1月、区から吉村氏に、氏の功績を顕彰する文学館の構想を

お伝えしたところ、「区の財政負担にならないこと、図書館のような施設と併設すること」を条件に設置を承諾してくださいました。

平成18年7月に吉村氏のご逝去された後、夫人で作家の津村節子氏のご協力により、蔵書、原稿、愛用品などを寄託いただいています。

施設建設に向けて

区では、平成18年度より、区民の皆様や学識経験者の方々にご意見をいただきながら、文学館の本格的な検討を開始しました。

そして現在、吉村氏の遺志を踏まえ、図書館、子ども施設、吉村昭記念文学館からなる複合施設の整備を構想し、設計を進めています。

また、今後は、「友の会」のような仕組みも検討しながら、より多くの皆様にこの施設を活用していただきたいと考えております。

刊行にあたって

現在荒川区では、吉村昭氏の作品を通して区民が広範な文学に親しめるよう、新たな図書館や子ども施設との複合施設として、文学館を設置する準備を進めています。

吉村氏は、調査旅行を重ね、生涯に渡り万年筆を用いて、数多くの作品を生み出しました。そこで、氏の作品『万年筆の旅』※を本紙タイトルとし、夫人の津村節子氏に揮毫いただきました。

平成28年度の開設に向けて、今後、より多くの皆様にこの施設を知っていただくため、本紙を通じて準備状況等をお知らせいたします。



特別区長会長
荒川区長 西川 太郎

※吉村昭「万年筆の旅-作家のノート2-」(文藝春秋、1986)

「(仮称)吉村昭記念文学館」を含む 複合施設の基本設計が まとまりました

(仮称) 吉村昭記念文学館は、施設内のどこでも本を手にとれる「図書館」機能、交流と体験を主体とした「子ども施設」、そして郷土が誇る作家・吉村昭氏の「文学館」という3つの機能が融合した、地下1階・地上5階建ての複合施設として整備します。

施設内は、親子の飲食スペースや子ども向けの図書類のほか、ホールを低層階に配置し、3階より上に一般書や専門書類、学習室等を配置します。また、(仮称) 吉村昭記念文学館は2階と3階に配置し、中階段で展示スペースをつなぎます。

施設全体としては、中心から外側、1階から5階に向かって、「賑わい」から「落ち着いたき」へと変化していく空間となっています(左図)。

施設の概要

所在地 荒川区荒川二丁目50番
敷地面積 約4,100㎡
延床面積 約11,000㎡
地上5階・地下1階
駐車場 14台

(障がい者用2台、
サービス車両用3台を含む)

駐輪場 370台

文学館が保管する吉村昭氏関連資料

○著作単行本等 約600冊

○直筆原稿 約110冊

○参考図書類 約1,800冊

○その他 直筆メモ、鞆、

ノート等取材関連資料、
書類類、愛用品等

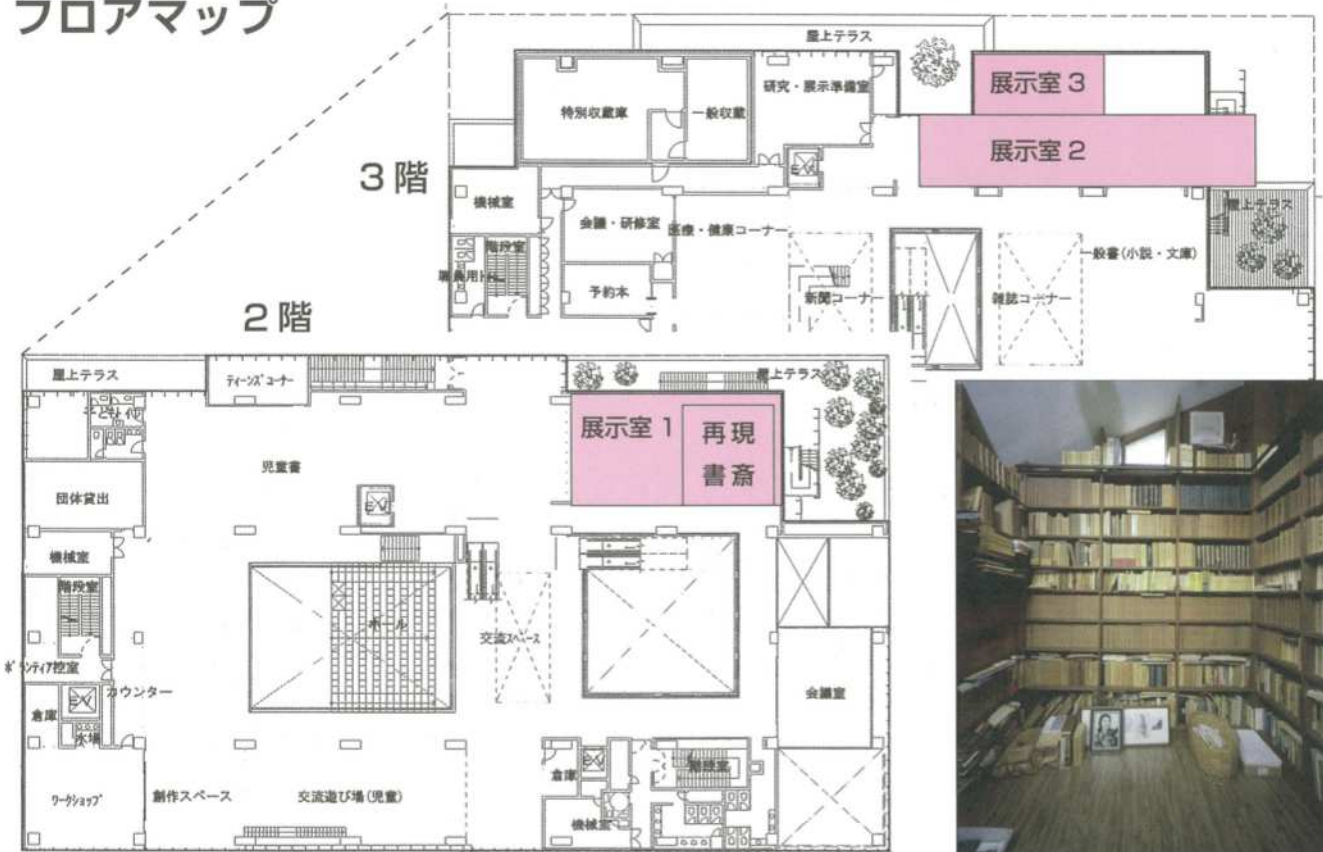
〈今後のスケジュール〉

平成24年11月〜実施設計

平成26年度 建設工事

平成28年度 竣工・開設

フロアマップ

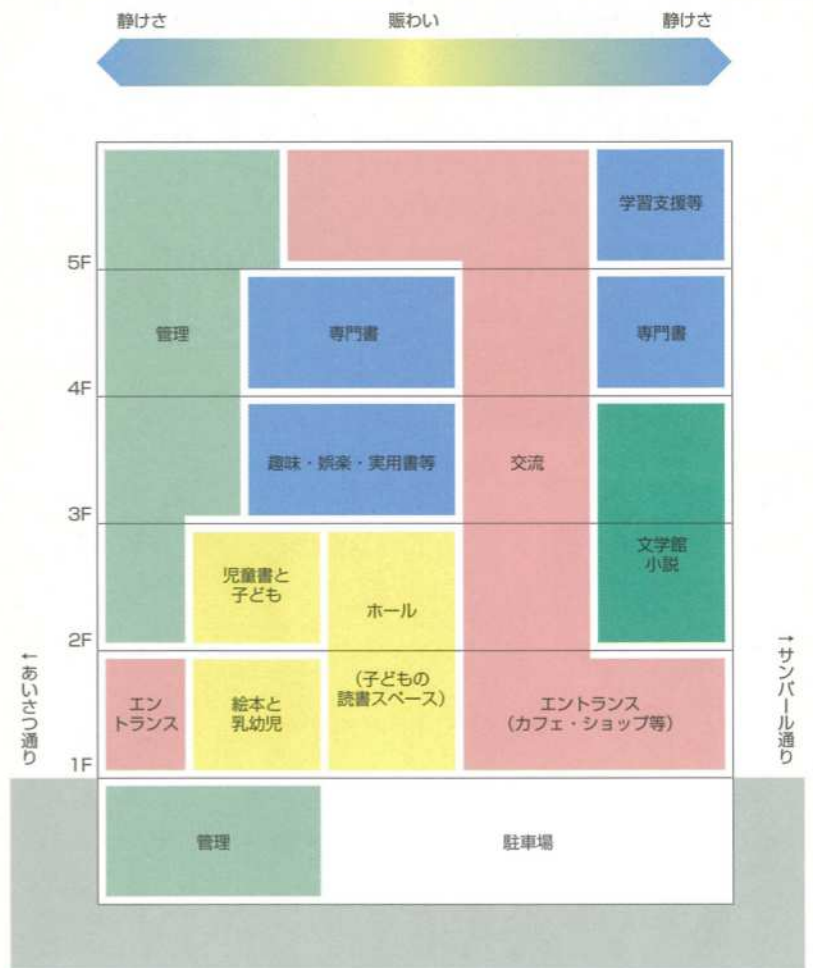


吉村昭氏書斎の活用

荒川区が目指す 「(仮称)吉村昭記念文学館」

地域に愛される文学館

本文学館は、「ふるさと荒川区を愛した作家・吉村昭氏の作品と足跡を基盤として、幅広い文化活動の展開を図り、区民の心を育み、荒川区の文化振興に寄与する」と



いう基本理念に基づき、吉村昭氏とその文学に関する資料の収集保存、企画展や講座、講演会などの活動を行う施設として整備します。また、複合施設の特徴を生かし、図書館や子ども施設との機能連携をはかります。そして、多くの来

館者の方々が、より広範な文学に触れる契機となるよう「文学を通して心を育む学びの場」を目指して、さまざまな活動を展開していきます。

文学館の構成とわかりやすい動線

文学館展示は、施設の2階と3階に配置する予定で、3階まではエスカレーターを設置します。

文学館内は上下階を移動するため、展示室内に内階段を設置するほか、館内表示を工夫し、エレベーター等への動線をわかりやすく表示します。

2階 書斎の活用とティーンズへのアプローチ

2階部分は、来館されるすべての方々の視界に入るよう、施設入口の吹き抜けに面した位置にあります。また、ティーンズ向けの図書コーナーにも近い位置とすることで、中高生にも積極的なアプローチを図り、より多くの方々に吉村文学を紹介していきます。

そして、吉村昭氏の足跡、代表的な作品などを紹介する展示室1に加え、直筆原稿のコピーを手に取って読める「コーナー」や再現書斎などを積極的に活用することにより、作家・吉村昭を体感できる空間を目指します。

3階 展示の工夫と図書館との融合

当文学館では、展示を「見ること」、「本を「読むこと」、「考えること」を自由に往来できることが望ましいと考えています。

そこで、3階には吉村作品閲覧コーナーを設置するとともに、さまざまなレイアウトが可能な展示室2を図書館の文芸書スペースに隣接させ、吉村氏の多岐にわたる作品世界を紹介します。

また、展示室3には、特に貴重な資料を展示できるように、ウォールケースを配し、大規模な展示の際には展示室2と連結した空間にします。

このほか3階には、吉村氏の資料を保存するための収蔵庫や学芸員作業室などが配置されます。

吉村昭コーナー

区立日暮里図書館2階には、日暮里出身の作家・吉村昭氏の作品や直筆原稿、愛用の品々を常設展示する「吉村昭コーナー」があります。

吉村氏が日暮里で過ごした日々は、鋭敏な洞察力、瑞々しい少年時代の感性を育み、私小説、歴史小説、戦史小説、紀行文、随筆など、多岐にわたる名作誕生の礎となり



ました。

特に、10代での戦争体験は、吉村文学の生成に大きな影響を与えたと言えるでしょう。

コーナーでは、定期的にテーマ展を開催し、著作を紹介する他、作品の真髄に迫るミニ企画展を催しています。

ぜひ、ご覧ください。

「日暮里図書館・電話番号」
03(38803) 1645

吉村昭の部屋

荒川ふるさと文化館（南千住図書館併設）1階・郷土学習室に設置された「吉村昭の部屋」では、作家・吉村昭氏の書斎机や下書き原稿（複製）を常設展示しています。

この原稿は、細字で記すことにより、原稿用紙一枚内に約十枚分が収められており、独自の執筆スタイルと、創作過程がうかがえる貴重な資料です。

また、「吉村昭コーナー」（日暮里図書館）で催したミニ企画展を巡回展示しています。
吉村氏に親しみ、作品世界と、



その背景に思いを馳せることができ「吉村昭の部屋」。

皆様のお越しをお待ちしています。

「荒川ふるさと文化館・電話番号」
03(38807) 9234

展示内容等に関する問合せ先
荒川区教育委員会事務局
社会教育課文学館調査担当
03(38802) 4976

出版物のご案内

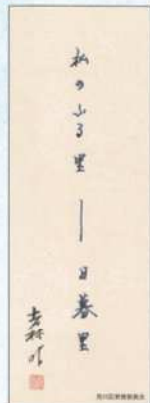
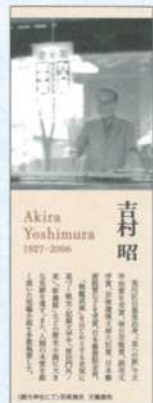
○荒川区×吉村昭

「ふるさとを描いた作家」
荒川区が登場する作品と共に、吉村昭氏と荒川区の関わりを紹介する小冊子です。



○吉村昭しおり

吉村昭氏のしおりを4種類作りました。



配布場所／各区立図書館

荒川ふるさと文化館
区役所3階社会教育課

※無料で配布します。

※在庫が無くなり次第配布を終了いたします。